

【令和3年度 授業改善推進プラン】 板橋区立若木小学校

【国語】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に意欲的に取り組む児童が多い。 ・音読に対して意欲的に取り組む児童もいるが、苦手な児童も多い。 ・ひらがな、カタカナ、漢字を正しく書けるために支援を必要とする児童が多い。 ・文字をバランスよく書けない児童が多い。 ・長い文章を書くことに苦手意識がある。 ・筋道立てて話すことが苦手な児童がいる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音読をする場面を増やす必要がある。 ・漢字を日常的に活用する力を育てる指導が必要。 ・辞書を活用する時間をしっかりと取る必要がある。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で音読をする場面を多く設ける。家庭でも聞いてもらう機会を増やす。 ・授業中の音読で、言葉のまとまりを意識させる機会を設ける。 ・読み聞かせを行い、文章や表現の仕方に慣れ親しませる。 ・連絡帳や宿題、ノート指導など、日々の課題を中心に、文字を正しく書く意識を高めさせる。 ・書写での字形についての指導。 ・文章構成の見通しをもたせるために、組み立てメモなどを活用し、筋道立てて書くことに慣れさせる。 ・児童が分かったことや感想を伝え合う時間を設定する。 ・家庭へのよびかけ

【社会】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験から予想したり、考えたりすることはできるが、資料を見て、関連付けられる児童が少ない。個人差が大きい。 ・資料を正確に読み取る力に差がある。 ・自ら課題を見付けて取り組むことが難しい。 ・個人の調べる活動に個人差が大きく、調べたことを基に考える力が弱い。 ・自ら課題を見付けて取り組むことが難しい。 ・新しく学習した用語への興味は引きやすいが、言葉や図を使ってその内容を説明することが苦手な児童が多い。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により校外学習を行うことが難しい。 ・問題解決的な学習のスタイルが不十分である。(学び方の指導が十分でない)

	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を有効に活用し、社会的事象について自分の考えを表現する力が十分でない。
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が学習問題をより身近に感じられるような資料を収集・活用していく。 ・問題解決的な学習(つかむ・調べる・まとめる)のスタイルを定着させる。 ・地図やグラフなど資料や動画からの読み取り方を指導していく。 ・読み取ったことを箇条書きで書くことを繰り返す。 ・資料から社会的事象(事実)を押さえた上で、事実と区別して考えたことを書く機会を増やす。 ・資料から、どんなことがわかり、何が問題になっているのかなど基本的な読み取りの仕方を定着させる。

【算数】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の学習への意欲に差が見られる。 ・基本的な四則計算に課題がある。(速さ、正確さ) ・繰り上がり、繰り下がりでのミスが多い。 ・かけ算九九のつまずきが、その後の学習に大きな影響を与えている。 ・重さ、長さ、かさなどの量感を捉えることが苦手。 ・三角定規やコンパス、分度器の扱いが不十分なため、作図に苦手意識を感じている児童が多い。 ・文章問題に苦手意識が強い。 ・自分の考えをノートなどにわかりやすく表すことが苦手。 ・友達の考えを、自分のものと比べたり正しいかどうかを考えたりしながら聞くことが不十分。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学級内の個人差が大きい。少人数に分けても個人差が大きい。 ・問題を正しく読む力を育てる必要がある。 ・時間配分に工夫が必要。
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を操作する活動を多くとり、感覚をつかませる。 ・大切なことは掲示物として残し、適宜ふり返ることができるようにする。 ・既習事項と比べて考えられるようにする。 ・課題把握、解決計画、計画の実行、検討、まとめの時間配分を考える。 ・文章問題では、必要な情報を整理することを習慣化させる。 ・自分の考えをわかりやすく表せるように、図や数直線、端的な言葉などの活用を促す。 ・自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えられるよう、発表の仕方を助言する。 ・友達の考えを聞くときは、自分の考えと比べたり正しいかどうか考えたりすることを意識させる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・定規、三角定規、コンパス、分度器を正しく使えるように、練習の場を多くとる。 ・家庭学習を含め、短時間でできる四則計算の練習を継続して行う。
--	---

【理科】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や生き物に関心をもって学習する児童が多い。 ・理科の用語や基本的な事項を習得し切れていない児童がいる。 ・観察したものを文章やスケッチで表現する力に差がある。 ・予想や考察の場面で、自分の考えを文章で表すことに個人差がある。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味や関心を、知識の習得や、事象をもとに考える力につなげる指導が十分でない。 ・実験や観察の際のポイントを理解させ、丁寧に表現させる指導が十分でない。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項や生活経験につなげて考えさせるような発問や声かけをする。 ・理科の用語や基本的な事項について、復習の時間を設け、児童が用語を使って説明する場面をつくる。 ・観察や実験では、事前にポイントを押さえ、活動の仕方や目当てを明確にする。 ・観察や実験では、視覚情報を言語化したり、絵で表現したりする経験を積ませる。 ・予想や考察の場面では、表現したことを交流させ、考えを深め、友達の表現の良さに気付けるようにする。

【生活】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物の観察を意欲的に取り組むことができる。 ・色、形、大きさなどの視点をもとに、絵や文で観察カードに表現することができる児童が多い。 ・表現力が乏しく、植物の変化や成長過程等を文章で表すことができる児童は少ない。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校外活動や、他学年との交流をすることができない。 ・一人一人の個性や発達に応じた多様な活動が難しい。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自ら活動や体験を選択する学習を行う。 ・直接見ることができないものも、ICTを活用するなどして、実物に近い経験をさせていき、気付きへとつなげていく。 ・様々な教科と連携し、語彙を増やして、気付きの表現力を伸ばす。 ・多様な方法で表現させたり、様々な事柄を見聞きさせたりし、気付きを交流する場を

	<p>設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の思いや願い、一人一人の個性や発達に応じた多様な活動や体験の工夫をさらに取り入れる。
--	--

【音楽】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の学習に興味を持ち取り組んでいる児童が多い。 ・簡単なリズム打ちは得意としている児童が多い。 ・鍵盤ハーモニカ、リコーダーの学習に制限があり、技能を高めることが難しい。 ・鑑賞の学習自体は興味を持ち取り組んでいるが、聴き取ったことや感じ取ったことを言葉で表す力には差がある。 ・音符や楽譜を読む力に差がある。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカ、リコーダーの技能を高めるための指導時間の確保が難しい。 ・鑑賞の学習で、めあてを明確にすることと、聴き取ったことや感じ取ったことを言葉で表現しやすいワークシートの工夫が必要。 ・音符や楽譜の読み方を限られた時間の中で確実に身につけさせる必要がある。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技能面の個人差については、学力向上専門員や担任に協力してもらい、必要に応じてTT的な指導を行う。(1年生の鍵盤ハーモニカ、3年生のリコーダー等) ・鑑賞については、語彙を増やしたり言葉での表現力を高めるために、感じ取ったことを表す言葉の例を掲示したり、既習事項から考えることができるよう視点を与えたりして指導する。 ・読譜については、音の高さやリズムを読み取る力を、身体表現やリズム打ちと結びつけて身につけさせる。

【図画工作】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や立体などに楽しみながら取り組む児童が多い。 ・思ったことを形にすることができているが、アイデアを思い浮かべたり、工夫したりすることが苦手な児童が各クラスに数名いる。 ・お互いの作品を見合い、友達の作品のよいところを見つけることができる児童が多いが、言語化することへの苦手意識がある。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を仕上げる時間に個人差がある。 ・製作時間が長くなる傾向があり、鑑賞時間の確保が難しい。 ・材料や道具の特性を生かしきれていない児童がいる。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を完成させるまでの見通しをもたせたり、具体例を示して、学習過程を細かく指示したりする。 ・制作中や完成後に互いの作品を見合う時間を設定する。 ・プリントを活用して言語化についても意識づけを行う。 ・廃材や題材で余った材料を取っておき、材料が足りない児童に提供できるようにしておく。 ・道具の使い方をていねいに指導して、安全に使えるようにする。 ・様々な材料や道具に触れる機会を多くとり、体験を通して特性に気付かせる。

【家庭】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・裁縫実習において、苦手意識をもつこともあるが、粘り強く取り組むことができている。 ・自分でできることをすすんで行ったり、家庭での生活に結びつけたりする力が十分でない。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面を具体的に指導するが、実施をする上で、大人の目が足りないことが多い。個別に対応するためには、指導者の数が必要。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導講師の先生や保護者とも連携を取りながら、多くの大人による指導を実践していく。 ・安全作業のポイントを明確に指導し、活動に入るようにする。

【体育】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動能力に大きな個人差がある。 ・体を動かすことは好きな児童が多いが、体の動かし方を理解している児童は少なく、少しの段差や変化に対応できず怪我をしてしまう児童も複数名いる。 ・めあてをもって運動することが難しい。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動量の確保が十分にできていないことがある。 ・運動のポイントの提示が十分でないことがある。 ・学び合いの時間の確保をすることが難しい。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・OJT研修などを充実をさせる。 ・運動技能のポイントを指導者がしっかりと理解し、授業の中で生かせるようにする。 ・コロナウイルス感染対策を取りながら、学び合いの時間を計画的に確保する。

【外国語活動】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の表現に親しみ、意欲的に発言したり、アクティビティに取り組んだりすることができる児童が多い。しかし、照れや恥ずかしい気持ちが強く、なかなか英語での表現ができない児童がいる。 ・言葉の意味理解については個人差が大きい。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単語の聞き取りにおいて、聞き取ることが難しい場合にどのような手立てをとるかが課題である。 ・マスクをしているため、児童の口(発音)の確認ができない。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で新出した英単語を繰り返し発音するとともに、意味理解を積み重ねる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・日常でも外来語に意識を向けさせ、語彙を増やせるようにする。 ・ALTとの関わりを通して、外国人とコミュニケーションをとるよさや楽しさを実感させる。 ・視覚的な教材や音声教材を活用し、文字よりも音声として親しむことができるようにする。
--	---

【総合的な学習の時間】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童が総合的な学習の時間に意欲的である。 ・自分は何を調べて、どのようにまとめ、発信していくのか見通しをもてない児童がいる。 ・調べたことから考えたり、まとめたりできない児童がいる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習のスタイルが十分に確立していない。 ・ねらいに即した個別の学習課題を見付けたり、調べたことをどのようにまとめていくか考えたりすることが苦手な児童が多い。
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習（課題をもつ・調べる・考える・まとめる・発表する）のスタイルを定着させる。 ・思考ツールを活用して、課題を見付けたり、調べたり、まとめたりする学習を積み重ねる。 ・課題のもたせ方、調べ方、まとめ方、発表の仕方など基本的な学び方を視覚的にもわかりやすく指導する。

【特別の教科 道徳】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・読み物教材に興味関心をもつ児童が多く、自分のこととして考える気持ちをもっている。 ・自分自身の振り返りをするとき、何をどのように振り返るか悩む児童もいる。 ・友達の考えをよく聴こうとしている。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値を高めるための発問構成ができていない場合がある。 ・児童にとって想起しにくい教材や発問がある。 ・振り返りをする時に、何について振り返りをするか、本時のねらいとあわせて考えさせることができていないことがある。

<p>■授業改善に 向けての具体的 な方策</p>	<ul style="list-style-type: none">・「こんな発問をすると、児童はどんな反応をするだろうか」と常に考えながら授業をしていく。そのためには、深い児童理解が必要。それぞれの児童個人毎に、座席表等を活用し、その児童の意見や様子等を書き込み、理解を深めていく。・何かに置き換えて話をしたり、具体的な物や写真等を用いたりして授業を進めていく。・ねらいやめあて、本時の内容項目等を意識した声かけや、板書提示をする。
-----------------------------------	---